

2017年4月1日～2021年3月31日の間に 当科において深頸部感染症の治療を受けられた方及びご家族の方へ

—「深頸部感染症臨床的検討」へのご協力をお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	臨床助教	藤田 尚晃
研究分担者	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	原 浩貴
	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	福田 裕次郎
	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	臨床講師	兵 行義
	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	雑賀 太郎
	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	濱本 真一
	川崎医科大学附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科	兼務レジデント	田所 宏章
	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	臨床助教	横山 彩佳
	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	臨床助教	若林 時生
	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	臨床助教	三宅 宏徳
	川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学	臨床助教	鹿毛 千聡

1. 研究の概要

深頸部感染症は扁桃炎などをきっかけに発症し、頸部の間隙に炎症が広がり、膿瘍（膿だまり）が形成される疾患です。重症化すると致命的になる可能性があり、的確な診断や迅速な治療が必要です。原因として扁桃炎や齲歯、外傷など多岐に及び、原因不明なことも少なくありません。糖尿病やステロイドホルモン内服歴、高齢者などでは重症化しやすいと言われています。近年は高齢化社会によって、高齢での発症例に遭遇する機会も増え、深頸部感染症の別の病因や重症化因子が指摘されています。そこで今回、当科で入院加療を行った深頸部感染症について臨床的検討を行い、深頸部感染症の病因やその重症化因子について検討します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2017年4月1日～2021年3月31日までに当科で深頸部感染症に対し、入院治療を受けられた方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2023年3月31日

3) 研究方法

2017年4月1日～2021年3月31日の間に当院において深頸部感染症の治療を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに①性別、②年齢、③症状 ④喫煙歴、⑤基礎疾患、⑥肥満、⑦初診時血液検査項目：白血球数、⑧初診時血液検査項目：CRP、⑨CT所見（膿瘍の局在、両側か片側か）⑩起炎菌、⑪治療方法、⑫入院期間、⑬基礎疾患の有無 に対して後ろ向き研究を行う。

4) 使用する情報の種類

情報：年齢、性別、症状、病歴、肥満、採血データ、CT 結果、細菌培養の結果、入院期間、治療方法

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から 5 年間、川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2022 年 3 月 31 日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学

氏名：臨床助教 藤田 尚晃

電話：086-462-1111 内線 27502（平日：9 時 00 分～17 時 00 分）

ファックス：086-464-1197

E-mail：fujita_j@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。